六甕の獣

しばた三歳

目次

含光君の恋文・番外編　【六甕の獣】……5
【設定とごあいさつ】……26

番外編　【六甕の獣】

口を吸い合いながら御剣し、白黒二人は空を蛇行しつつ、雲夢はずれの宿になだれ込んだ。

本来であれば、すぐに雲深不知処へ戻り、藍啓仁へ謝罪しに行かねばならない。藍忘機はほんの数刻のうちに、家規を六つ破った。身なりを整えず、執務を放棄し、無断で外出、下山せずに御剣、藍啓仁自慢の結界を歪め、そして今――唇を赤く腫らして、みだらな様子を周囲に晒している。

しかし藍忘機は思う。今は謝罪どころではない。自分の人生に、これほど切羽詰まり、他の全てがどうでも良いと思えるような僥倖が訪れようとは。

あまりにも乱れた含光君の外見を気にして、せめて髪だけでも撫でつけようと魏無羨が腕を伸ばしてくれたが、互いに口を吸い合うのに夢中になり――さらに幾度も避塵から足を踏み外した事で、宿に着く頃には、二人とも乱れきった外見になっていた。

顔に笑みをはり付けた宿主から軟膏を受け取った藍忘機は、客室に入るなり結界を張る。すぐに魏無羨の、吸いすぎてぽってりと赤く腫れた唇にむしゃぶりついた。

「ん……」

待ちきれず、魏無羨もみずから口を開く。昨夜はじめて口づけを知り、ほんの先ほど口吸いを覚えたばかりの二人だったが、すでに互いの唾液に飢えていた。

魏無羨はかつて、仲間との猥談で「相性の良い女人の唾液は甘く感じ、体臭も快く感じる」と聞いた事がある。唾液が甘いとか本気かよと笑っていたが、(あれは真実なのかも知れない)とぼんやり思う。だって、こんなに――嘘みたいに甘い。

体臭だって。いまだかつて、男の体臭なんてくさいとしか思わなかったのに、藍忘機の匂いはダメだった。今もこうして身を寄せ合いながら、その魅惑的な香りに頭がくらくらしている。

口を吸い合い、互いの体をまさぐっていた手が、徐々にきわどい部分へと向かう。特に藍忘機の手はわかりやすく、魏無羨の背中を撫でおろし、盛り上がった尻へと執着を見せていた。はじめはたどたどしく、次第に強く揉まれるうちに、魏無羨はくすくす笑いだす。

「藍にいちゃん、ちょっと尻を揉みすぎじゃないか？　そんなに俺の尻は可愛いか？」

「……うん」

耳を赤く染め、別人のように荒い息を吐きながら、藍忘機は素直に頷いた。

実際、魏無羨の尻はとても魅力的だった。細身なのにそこだけがふっくらと肉感的で、柳のようにしなやかな腰からの対比は藍忘機を魅了してやまない。これまでにいったい何度、そこ

を愛でる想像をして来た事か。夢にまで見た部位を自由にいじれる興奮と、指を弾くここち良い揉み心地に夢中になり、そこから手が離せなくなる。
「ふふっ」
魏無羨はご機嫌だった。尻を揉まれたところで大して気持ちよくも無い。だが、あの雅正の手本たる含光君が自分の尻に執着しているという事実がたまらない。藍忘機の余裕の無さが愛おしく、それがむしろ魏無羨に余裕をもたらした。
「お前が尻なら、俺はこっち……」
ほんのり笑いながら、藍忘機の股間に手を伸ばす。御剣している最中、藍忘機は少し腰を引いていた。その股間が充血している事には気付いていたが、さすがに空中で股間を探るのはどうかと、ずっと触れるのを我慢していたのだ。
「魏っ、……っ！」
隠しようもなく隆起したそれに手を這わされ、藍忘機は息を呑む。
「おま、……えぇっ？　ちょっと、……でかすぎじゃないか……？」
意気揚々と撫で始めたいたずらな手は、全体像を把握した途端にひるむ。
（なんだコレ、えっ？　嘘だろう？）
ひるむと同時に、むくむくと好奇心が湧いて来た。
「ちょっと見せて？」

言うや否や、藍忘機の前にしゃがみ込み、帯を解きにかかる。今日の藍忘機を裸に剥くのは簡単だ。なにしろ寝着の上に外衣を羽織っているだけなのだから。
抵抗も無くするりと下衣を落とせば、お上品な外面からは想像もつかないような肉塊が姿を現す。びきびきと血管を這わせ、まさに怒張といった風情だ。
「でっか……！」
魏無羨は目を輝かせた。でかいのは男の誉れだ。単純にかっこいいと思う。
「いいなぁ藍湛の！　めちゃくちゃでかいじゃないか！」
俺のだって小さくはないと思うけど、そう言いながら自分の帯を解きにかかる魏無羨を見て、藍忘機は興奮のあまり眩暈を覚えた。
（魏嬰が、わたしと睦み合うために、自分で衣を脱いでいる……っ）
はぁはぁと、さらに荒くなる吐息が恥ずかしい。
一方の魏無羨は、さらに大きく育った藍忘機の陰茎に気を取られ、脱ぎかけの手を途中で止めた。
「嘘だろ、まだ大きくなるのか……？」
再度その場にしゃがみ込み、無邪気にそれを眺めだす。雲夢でも大きさ比べをしたが、藍忘機のそれは群を抜く大きさで、美しい反りを見せている。まるで龍の角のようだ。
「こんなにかっこいいちんちん、俺見た事ないよ。さすがは含光君だ……」

（続きは紙の本でお楽しみください）

六甕の獣

しばた 3 歳

発行日　　：2022 年 7 月 2 日
発行者　　：しばた 3 歳
連絡先　　：shibata3sai@gmail.com
Twitter　　：https://twitter.com/shibata3sai

【Twitter】

印刷会社　：製本直送.com
表紙　　：canva
Pixiv 小説 ID：17219724

【pixiv】

※無断転載・複製・複写・web 上への掲載は禁止です